

『昨年のくらしの一部』

川柳 二十句

二十回生 井出(藤川) 敏  
(柳名 胡蝶)

あずき粥食べて健やか小正月

立春と言えど雪舞う『お水取り』

並木道まだ青春の香が残ってる

朝食に茶柱立って今日を期待

初曾孫<sup>ひまひ</sup>われら卒寿・傘寿の「弥生」の幸<sup>こころ</sup>

それぞれの父母探している参観日

(孫一年生)

子等育ら蔵で寝ている「鯉のぼり」

幼年の友とは今も気が合って

年毎にやり甲斐ある行為減ってゆく

高齢の夫と船旅「台北」へ(五月)

百周年の「チケット」嬉しい「ヅカ歌劇」

溜池の最大・最古「狭山池」

(日本の千四百年記念)

老いても旅の前夜は嬉しくって

山裾のトロッコ列車に手を振って

嫌なこと皆忘れて日本晴れ

庭先と飛ぶ赤トンボ秋期待

秋刀魚寿司季節の味も高価すぎ

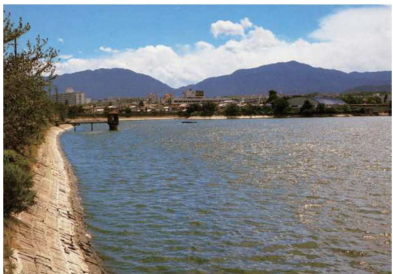
気がかりの法要三回終えた秋

忘れ物一日探して日が暮れる

寒い夜の「おでん」の味は母の味



デユランタ(タカラヅカ)の花



→ 狭山池

日本最古の溜池は今年5月千四百年祭を賑やかに執り行いました。楽しい日々でした。(日本書紀や古事記にも記された人造池で河内平野を潤して来ました)



← 池畔の美しい桜並木  
毎年大勢の人が楽しんでます。